

**講演者:**

原島 博 氏 (東京大学名誉教授、明治大学客員教授)

**略歴:**

1945年に東京で生まれる。2009年に東京大学を退職。

工学部で人と人との間のコミュニケーションを技術的にサポートすることに関心を持ってきた。

その一つとして人の顔にも興味を持ち、「顔学」の構築と体系化にも尽力してきた。

最近では、科学技術と文化の融合にも興味を持っている。

現在、東京大学名誉教授。明治大学(総合数理学部)などの客員教授もつとめている。

**講演タイトル:**

「工学は文化創造学である」

**講演概要:**

工学は、普通は理系扱いされます。なぜでしょうか。それは工学においては数学や物理学などの理系の方法論が必要となるからです。一方で、工学の目的とすることは、人々の生活や文化を向上させることです。その意味では、工学は「文化創造学」です。そろそろ工学は、方法論ではなく、何を目的とするかで定義すべき時代になっているのではないのでしょうか。

さらに言えば、20世紀までは文化は「物の豊かさ」であり、それは工業が担ってきました。したがって、文化創造学は工業生産学という形をとってきました。いまは「心の豊かさ」が求められています。そのとき、工学＝文化創造学は何を目指せばいいのでしょうか。一緒に考えてみたいと思います。